
個室隔離中の腎移植患者の 心理状況とその影響因子

秋田大学医学部附属病院 2階西病棟*、同泌尿器科**

米山美智子、熊谷ナミ子

河原泉*、佐藤滋**

Influence of Single-room Isolation on Psychological Status in patients Following Renal Transplantation

Michiko Yoneyama, Namiko Kumagai,

Izumi Kawahara*, Shigeru Satoh**

Ward of Urology, Akita University Hospital

秋田大学では、1998年2月から12月までに8例の生体腎移植を経験した。腎移植術直後より、感染予防と全身管理のため無菌室に患者を入室させ、3日間医療者が常室して看護する体制となっている。この環境における移植患者の心理状況を調査し、術後管理に悪影響を及ぼす因子を検討した。

対象は当科で1998年2月から10月までの間に生体腎移植を行った患者6例とした。看護婦2名対移植後患者1名の面談方式で、個室の環境、医療者の関わり、個室入室期間とストレスの関係に関する聞き取り調査を行った。個室の環境では広さ以外に移植患者に与える影響は少なかった。

術後3日間医療者が常室することに関しては、満足な点として、急変時すぐに対処してもらえ
る安心感、若い医師で話しやすかった、何でも頼むことができたなどがあげられた。不満な点と
して、緊張した、体調が悪い時に話しかけられて苦痛だったなどがあげられた。また、女性患者
特有の感想として、同性である看護婦のほうが細かいことも頼みやすかった、術後の排ガス時恥
ずかしかったという意見があった。また、個室入室期間が長い患者及び入室中にトラブルが多か
った患者ほど孤独を感じていることも明らかになった。これらの結果より、個室環境を見直し、隔
離期間を可能な限り短くするとともに、医療者が常室しなくなる術後4日目以降のストレスの軽
減を今後考える必要がある。

図1. 個室（無菌室）の見取り図

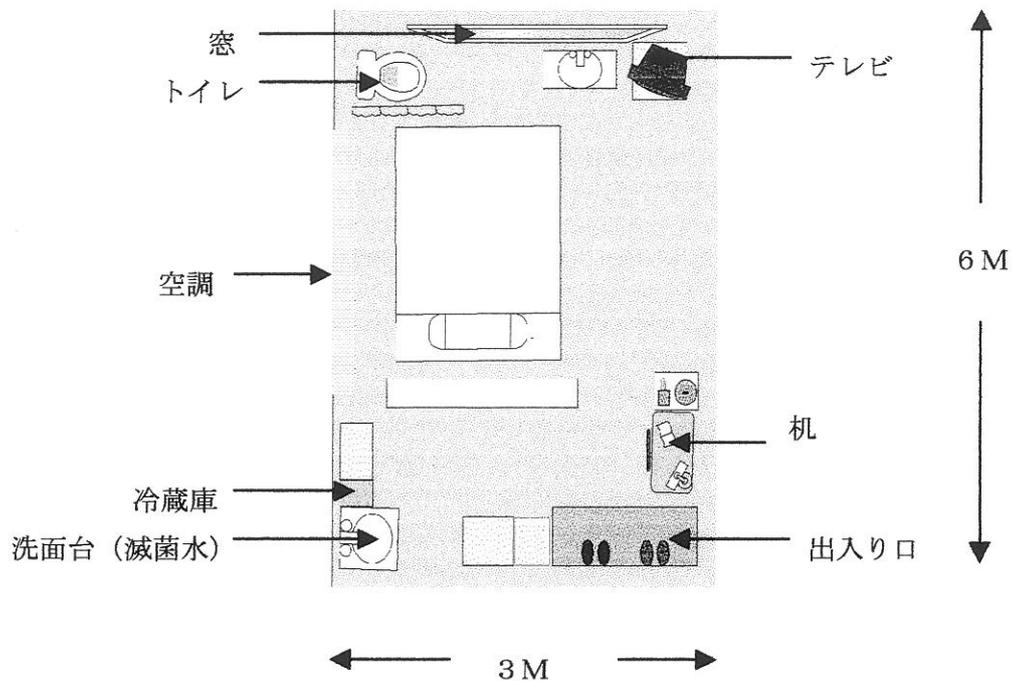


表2. 個室隔離期間、ストレスについて

	個室隔離期間	満足	不満足	ストレス
A	23日間	———	長く感じた	孤独感
B	13日間	気にならな かった	———	———
C	36日間	———	長すぎた	孤独感 特別視されること
D	20日間	気にならな かった	———	喫煙できないこと
E	21日間	気にならな かった	———	———
F	12日間	気にならな かった	———	自分の術後経過が 心配